説　教　　聖日礼拝　　北浜チャーチ

黒田　禎一郎

２０２０年１０月４日（日）

主　　題：「たましいの牧者のもとに」（１）

―良き羊飼いー

テキスト：１ペテロの手紙２章２１―２５節

はじめに

•先日、読売新聞特別編集委員橋本五郎氏が、李登輝元台湾総統について書いておられました（2020年９月５日、読売新聞大阪朝刊）。私は李登輝前総統は、かねがね立派な人物と聞いておりました。そして今回、橋本氏が書かれた文章がとても印象に残るものでしたので、ここでその一部をお読みしたいと思います。

・７月３０日、李登輝さんは９７年の生涯を終えられました。李登輝さんは、私がこれまで出会った政治家の中で５指に入る偉大なリーダーでした。なぜなのか。橋本五郎氏は、３点理由を挙げました。

・第１に、李登輝さんには信仰がありました。敬虔なクリスチャンでした。総統という重責を担った期間は「毎日が闘争だった」と振り返っています。そんな困難な事態に直面したとき、必ず『聖書』を手に し、まず神に祈りました。そして聖書を開いて、自分が指したところを一生懸命読み、自らどう対処すべきかを考えました。ただその信仰は、決して排他的ではありませんでした。

・そして第２の理由として、李登輝さんには哲学があったと言います。第３の理由としては、良き日本人の精神を持っていたと、橋本氏は述べています。

・日本の一般新聞が、このように論評することは、じつに珍しいことではないかと思います。それほど李登輝氏の生き方が、台湾はもとより日本にも多大な影響と与えたということでしょう。

・私はこの記事を読み、李登輝元総統をささえたキリスト信仰の幸いを覚えたのです。イエス・キリストを信じるということは、じつに幸いなことです。聖書は、国の最高主権者にも、また地位がもっとも低い人にも、等しく生きる知恵を与える神の書であります。私たちもその同じ聖書から、神のことばを聞くことができるとはなんと幸いなことではないでしょうか。

・ところで、これまで学んできた第１ペテロの手紙２章も終わりに近づいてきました。前回、ペテロは当時の「サーバント」（奴隷）に対する勧めを書き送りました。その中で、主イエス・キリストが受けられた苦難について言及しました。

・そしてこの２章の最後の部分で、イエス・キリストが受けられた十字架の苦難が何を意味するかを語りました。ここは大変大切なところですから、私は２回に分けて学びたいと思います。今日は、主イエスが受けられた「不当な苦しみ」と、「耐え忍ばれた苦しみ」について学びます。そして次回は、「私たちのための苦しみ」について学びたいと願います。２点。

大切なポイント

１．不当な苦しみ

2:22 キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。

１）イエスは当時、危険人物とされた

・主イエス・キリストはゲッセマネの園で捕らえられ、大祭司カヤパの官邸に連れていかれました。そこで宗教裁判を受けました。サンヘドリンと呼ばれるユダヤ人最高議会は、当時サドカイ派とパリサイ派というユダヤ教の派閥によって構成されていました。

・なぜ、彼らはイエス様を殺そうとしたのでしょうか。

① サドカイ派は神殿で特権的な地位を得ていた祭司階級でした。彼らはイエスが自分たちの地位を脅かすと思いました。

② 一方、パリサイ派はユダヤ教会堂で律法を教え、人々の宗教生活を指導しえいました。彼らは、イエスが自分たちの権威を失墜させることを恐れました。

したがって、サドカイ派にとっても、パリサイ派にとっても、イエスは当時の危険人物でありました。

・しかし、イエスが死刑にあたる罪を犯していると証明することは、容易ではありませんでした。偽りの証人も用意されましたが、証言には食い違いがあり、決め手とはなりませんでした。最後に大祭司が「おまえは神の子キリストか」と質問しました。聖書はつぎのように記録しています。

マタイ福音書２６章

26:63 しかし、イエスは黙っておられた。そこで大祭司はイエスに言った。「私は生ける神によっておまえに命じる。おまえは神の子キリストなのか、答えよ。」

26:64 イエスは彼に言われた。「あなたが言ったとおりです。しかし、わたしはあなたがたに言います。あなたがたは今から後に、人の子が力ある方の右の座に着き、そして天の雲とともに来るのを見ることになります。」

26:65 すると、大祭司は自分の衣を引き裂いて言った。「この男は神を冒?した。なぜこれ以上、証人が必要か。なんと、あなたがたは今、神を冒?することばを聞いたのだ。

26:66 どう思うか。」すると彼らは「彼は死に値する」と答えた。

大祭司や議員たちは、神を冒涜する言葉として、死刑の判決を下しました。

・ペテロは２章で、**「キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。」（2:22）**と記しています。ペテロは約３年間、イエスとともに生活をした人です。文字通り寝食をともにすれば、人の弱さや欠点、独りよがりで自己中心であることが、誰でも見えてくるものです。しかし、ペテロは**「「キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。」（2:22）**と言いました。

・そのお方が当時、危険人物とされました。そして時の権力を持つ「サンヘドリン」（ユダヤ最高議会）で、「死に値する」とみなされました。これがイエス様にあって、覚えたい１点です。

２）不当な苦しみ

・イエスは「死に値する」とされ、その後どのような取り扱いを受けられたのでしょうか。⇒「不当な苦しみを受けられた」　先ず、イエスはユダヤ人たちによって犯罪人とされました。そして不当な苦しみを受けられました。

不当な苦しみ；

① 両手を縛られ、顔に唾をかけられた
② こぶしで殴られ、平手で打たれた
③ ローマ軍の兵士たちによって背中をムチ打たれた
④ 緋色のマントを着せられ、茨で編んだ冠をかぶせられ、葦の棒を持たさ れた
⑤ 「ユダヤ人の王様、万歳」と言って、からかわれた
⑥ 十字架を背負わされ、刑場まで歩かされた
⑦ 着物を剥ぎと取られ、両手両足を釘で木に打ち付けられた
⑧ 道行く人たちからも「お前が神の子なら、自分を救ってみろ」とからかわれた
⑨祭司長、律法学者、長老たちから「お前はイスラエルの王だろう。十字架 から降りて来い」と嘲笑された

・私は法律の専門家ではありませんが、それでも非常に感情的になったユダヤ人たちが、イエスに対して、このような行動をとったことは不当なことだと思います。

2:23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、脅すことをせず、

これがイエス・キリストが受けられたことでした。ここで忘れてはいけないことは、イエスは「不当な苦しみ」に対し、抵抗されなかったことです。

・ペテロはイエスが「不当な苦しみ」をどのように受け止められかを記していました。それが次の第２のポイントです。

２．耐え忍ばれた苦しみ

2:24 キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。

１）イエスは耐え忍ばれた

・主イエス・キリストは、その苦しみを耐え忍ばれました。

2:23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、脅すことをせず、

・十字架にかけられた犯罪人たちは当時、自分を十字架につけた人を呪ったそうです。囚人たちは。苦しい息の中から、自分を苦しみに合わせた人々を呪いました。それは報復でした。２倍返し、３倍返し・・・。です。

・一般的に、人間はそのような抵抗をするものですね。しかしイエスは違っていました。ある方は、イエス・キリストは「神の子」であったから、そうできたのでしょう、と言います。「神の子」であったから、苦しみに耐える力があったのでしょう、と言います。

・確かに、イエス・キリストは「神の子」でした。果たしてそうでしょうか。

聖書を読んでいいきますと、イエスには３つのメシア称号がありました。

「神の子」　　：神から遣わされたメシアである
「ダビデの子」：イスラエルの家系から出るメシアである
「人の子」　　：世界中の人類を救うメシアである

・しかし受難を受けられたイエスは、「神の子」の権威を使われませんでした。

なぜ、でしょうか？　⇒全人類のメシア「人の子」として遣わされたことを、はっきりと自覚しておられたからです。ヨハネ福音書１２章は次のように記録しています。

12:27 「今わたしの心は騒いでいる。何と言おうか。『父よ、この時からわたしをお救いください』と言おうか。いや、このためにこそ、わたしはこの時に至ったのだ。

イエスは世に来られた目的を、はっきりと自覚しておられました。

・イエスは「人の子」として行動をとられました。それはなんという大きなことでしょうか。イエスは言われました。ヨハネ福音書 15 章

15:13 人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。

・イエス・キリストは全人類の救いのために、「人の子」として耐え忍ばれました。イエスは「人の子」として、何を語られたのでしょうか。

2）イエスの十字架上のことば

・主イエスは十字架上でこう言われました。ルカ２３章

23:34 そのとき、イエスはこう言われた。「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」彼らはイエスの衣を分けるために、くじを引いた。

・イエスは、自分を苦しみに合わせた人々のために祈られました。

それは「正しくさばかれる方にお任せになった。」からでした。全き信頼、⇒それは信仰の最高峰でしょう。

そこまで父なる神を信頼されました。ルカ福音書２３章によれば

23:46 イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた。」でした。

これは、「お休みなさい！」（Good Night!）ということばであると聞いたことがあります。

・イエスは、最後の最後まで、天の父なる神を信頼されました。ここに、イエス・キリストの信仰（信頼）の姿を見ることができます。それでは、イエス様が不当な苦しみを、耐え忍ばれたことは、いったい何を意味するでしょうか。ペテロは次のように書きました。

・ 2:24 キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。

ここで大切なことが 2 点あります。

① 私たちが罪を離れ、義のために生きるため

② その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。

・イエス・キリストの十字架の死は、私たちが罪から離れ、義に生きるためです。ペテロは、イエスが受けられた打ち傷によって、私たちは癒された、と言いました。何ということでしょうか。私たちが全く知らないところで、創造神は救いの道を開いてくださいました。

・それは神の前で、罪を犯すことがなかった「人の子」であるイエスによってです。人が義とされるのは、行いによるのではありません。ただ、イエス・キリストの十字架の御死を信じるだけです。ここにキリスト信仰の中心があります。

・このお方（イエス・キリスト）こそ、私たちの「たましいの牧者」です。

人は、このお方の元で真の赦し、平安、慰めを受けることができるのです。

『例　話』

・私は次のような話を耳にしたことがあります。それは米国の Max Ruched 牧師です。彼はテキサス（内陸）で生まれ育ちました。10 歳になるまで、海を一度も見たことがありませんでした。彼にとって海は憧れであり、夢に見るほどでした。

・10歳になった年、彼は叔父が住んでいるカリフォルニア州のサンタ・モニカビーチを訪れました。白い砂浜と限りなく広がる太平洋、その中で彼を最も感動させたのは、絶えず押し寄せてくる波でした。「叔父さん、波が続けて押し寄せてくるよ」すると叔父さんはこう答えました。「マックス、知っているかい？夜にも波はずーと押し寄せてくるんだよ」

・マックスは驚いて言いました。「そんなはずないよ。なんで水がそんなにたくさんあるの？　叔父さんは言いました。「マックス！この波は1千年前にも、今のように押し寄せていたんだよ。私たちが死んだ後も、この波はずーと押し寄せるんだよ」マックスはその日一日中、止まることなく押し寄せてくる波と遊びました。

・と、自分のこのような少年時代の経験を楽しそうに話していたマックス牧師は、しばらく沈黙しました。そして、こう言いました。「神の恵みも同じで、私たちが1千回倒れても、神の恵みは押し寄せてきます」

・皆さん。理解できるなら、それは恵みではありません。見当のつく大きさなら、それも恵みではありません。想定内であるからです。「他のことならともかく、これだけは絶対に許されないだろう」と思えるようなときにも、神の赦しと恵みの波は私たちに向かって、絶えず押し寄せてきます。頭でも、心でも、経験によってでも理解できないのが、私たちに対する神の恵みです。

・皆さん。イエス・キリストにあって受ける神の恵みは、いつまでも変わることのない波のようです。みことばはこう教えてくれています。

2:24 キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。

・イエス・キリストの十字架によって受ける神の恵みは、いつまでも変わることはありません。そしてイエスの打ち傷によって、私たちは心が癒されるのです。このことを信仰によって、受け止める人は幸いです。

ま　と　め

主　　題：「たましいの牧者のもとに」（1）

―良き羊飼いー

・今日、私たちはイエス・キリスト様が不当な苦しみを受けて、苦しみを耐え忍ばれたことを学びました。イエス様は、なぜ受難をお受けになられたのでしょうか。ここで、まとめてみましょう。

1．聖書のみことばが成就するため

2．神の救いが成就するため

・いつまでも変わらないイエス・キリストの救い（恵み）、それを心から感謝しようではありませんか。今週も私たちは、「たましいの牧者であり、良き羊飼い」であるイエス・キリストとともに歩みましょう。

＊ Gd bless you!